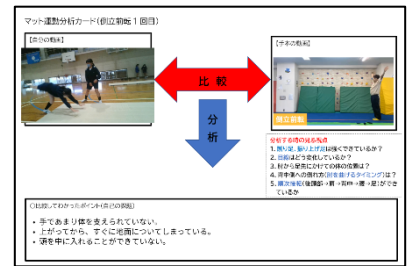


6. 授業の実際

(1) つかむ段階

ここでは、前時の最後で行った1回目の倒立前転のできたところ、うまくできなかったところを振り返り、自分の課題を再認識した(資料1)。本時では、倒立前転のポイントを提示し、個人にあった練習を行い、自身の倒立前転を評価して新たな成果と課題を見つけることをねらいとした。



資料1: 前時の振り返り

(2) さぐる段階

ここでは、前時にでた課題を克服し、倒立前転のポイントを意識した練習を行うために、個人にあった段階練習を行い、出来栄を動画撮影することをねらいとした。倒立が苦手な人は壁倒立から、倒立前転の練習に入っている人は、壁のぼり倒立から前転、補助倒立前転など自分のレベルに応じた練習を仕組むことで、より意欲的に練習に取り組めるようにした。生徒の活動としては、こまめに動画を撮影しながら見本の動画と比較したり(資料2)、友達どうして「肘が曲がってるよ」や「後頭部からつく意識を持ったほうがいいよ」などとアドバイスをしたりしながら活動しており、練習する側だけでなくアドバイスをする側もポイントを押さえた状態で練習している様子が見受けられた。また、撮影してもらった動画を自分自身で見直して、工夫しながら練習している生徒もいた。うまく練習を行うことができていない生徒は教師が補助や動画を見て助言をしながら練習を行っていた。



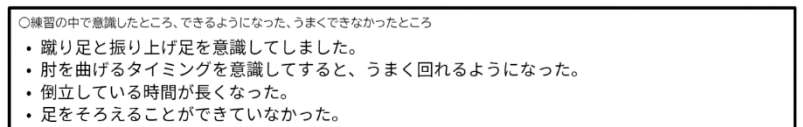
資料2: 撮影した動画を振り返る様子

(3) 深める段階

ここでは、撮影した動画を前時の自分と比較し、自身の倒立前転を評価する時間とした。始めに、個人で分析シートを活用し、前時の動画と本時の一番出来のいい動画を比較した。そして書く活動の取組として、意識して練習したところ、前回と比べてできるようになったこと、うまくできなかったところの視点で自己分析を行った。さぐる段階で時間を使ってしまったこともあり、書く活動の時間が短く、充実した振り返りを行うことができなかったが、(資料3、4)のように動画を振り返り、自己分析ができていた生徒も多くいた。最後には分析シートがよくかけている生徒、前回と比べて成長した生徒の動画を見て、次時への意欲を高める振り返りを行った。



資料3: 分析シートによる振り返り



資料4: 書く活動IIの内容

5 成果と課題

- タブレットで動画を撮影したことで、活動量は減ったが、自分自身を分析しながら、効率のいい個人練習を行うことができた。
- 書く活動の時間を取り入れたことで、最後にゆっくり自分自身の練習の成果を振り返り、次時の自身の練習しなければならないことを理解することができた。
- 練習の時間と書く活動を1時間の授業にいれて行うことは大変窮屈になったため、書く活動の工夫が必要である。